

## 大雪災害調査 成果報告会

日 時： 2014年6月7日（土）10:00～18:00（受付：9:30～）

場 所： 駅南貸会議室 KENTO Room A（新潟市中央区天神 1-1 PLAKA3 地下1階）

### 式次第

10:00～10:05 挨拶

特別研究促進費 研究代表者 和泉 薫（新潟大学）

10:05～12:05 成果報告 I

#### 【積雪】

1. 平成26年2月中旬の関東甲信地方を中心とした大雪時の積雪深分布図  
○伊豫部 勉・松元 高峰・河島 克久・和泉 薫（新潟大学災害・復興科学研究所）
2. 南岸低気圧によってもたらされた降水の形態と積雪水量  
○河島 克久・伊豫部 勉・松元 高峰・和泉 薫（新潟大学災害・復興科学研究所）・平井柔（新潟大学理学部）
3. 東京都心部の雪観測と雪荷重評価  
○松田 益義・清水 孝彰（株MTS雪氷研究所）

#### 【災害全般】

4. 山梨県で発生した大雪災害ー主に道路のり面についてー  
○後藤 聡・荒木 功平（山梨大学大学院）・上石 勲（防災科学技術研究所）
5. 山梨県内の大雪被害の概要と応急対策  
○上石 勲（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

#### 【人的被害】

6. 平成26年関東甲信豪雪における人的被害について  
○上村 靖司・関 健太（長岡技科大・長岡技科大院）

#### 【交通】

7. 甲信地方の大雪道路災害と短期的対策  
○福原 輝幸・寺崎 寛章（福井大学大学院）

#### 【建築】

8. 2014年2月の大雪による建築構造物の被害  
○高橋 徹（千葉大学）・中村 一樹（防災科研）・植松 康（東北大学）

12:05～13:00 昼 食

13:00～14:45 成果報告 II

#### 【降雪】

9. 関東甲信に大雪をもたらした気象状況：メソ気象モデルによる再現実験

○本田 明治（新潟大）・山崎 哲（JAMSTEC）・吉田 聡（JAMSTEC）・藤田 彬（新潟大）・岩本 勉之（極地研／新潟大）

10. 関東甲信に大雪をもたらした気象状況：大気循環場の特徴

○山崎 哲（JAMSTEC）・本田 明治（新潟大）・吉田 聡（JAMSTEC）

11. 冬季本州内陸における多降水・多降雪の発現

○上野 健一・安藤 直貴（筑波大学生命環境系）

**【農林被害】**

12. 栃木県南西部で発生したスギ林の冠雪害とそれをもたらした気象条件

○松元 高峰・河島 克久・伊豫部 勉（新潟大学 災害・復興科学研究所）

13. 大雪による森林の冠雪害調査

鈴木 寛・後藤 義明・岡野 通明・南光 一樹・○竹内 由香里（森林総合研究所）

14. 2014年2月大雪の農業影響

○井上 聡・小南 靖弘・根本 学（農研機構北海道農研）・大野 宏之（農研機構中央農研）・森山 英樹（農研機構農工研）

15. 2014.2.14-15の大雪によって関東甲信地域で見られた農業用ハウスの被害の実態とその軽減のための提案

○深澤 大輔（新潟工科大学）

14:45～15:00 休 憩

15:00～16:45 成果報告Ⅲ

**【雪崩】**

16. 関東甲信地方に大雪をもたらした南岸低気圧による雪崩災害について

○和泉 薫・河島 克久・伊豫部 勉・松元 高峰（新潟大学・災害復興科学研究所）

17. 関東甲信の大雪に対する土木研究所の対応と雪崩調査について

○秋山 一弥・池田 慎二・松下 拓樹・伊東 靖彦（独）土木研究所雪崩・地すべり研究センター）

18. 低気圧性の降雪により2014年2月9日に山形県西川町で発生した雪崩について

中村 一樹・○小杉 健二（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

19. 2014年2月の南岸低気圧により発生した関山峠の雪崩災害

○中村 一樹・阿部 修・佐藤 研吾・小杉 健二（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

20. 積雪変質モデルを用いた大雪災害時の積雪状況再現の試み

○平島 寛行・本吉 弘岐（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

21. 早川町で発生した雪崩を対象とした3次元流動解析

○小田憲一（日本大学理工学部）・上石勲・山口悟（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

22. 多項式カオス求積法を用いた雪崩ハザードマップの作成に向けて

○西村 浩一（名古屋大学）・常松 佳恵（富士山科学研究所）

16:45～16:55 休 憩

16:55～17:25 総合討論

17:25～17:55 今後の予定について

17:55～18:00 閉会挨拶

日本雪工学会 会長 福原 輝幸（福井大学）

■成果報告会が終わり次第、会場近くで懇親会を予定しています

## 研究成果報告書の発行計画・執筆要領

### 1. 発行計画

A4 版 総ページ数 200 程度

6 月 30 日原稿締切 → 8 月完成・発送予定

予定発行部数:500 部

研究者・研究機関:100 部

国の機関:100 部

都県庁関係:100 部

市町村関係:100 部

予備・その他:100 部

### 2. 内容

- ・ 研究分担者・協力者リスト
  - ・ 研究発表リスト
    - A. 雑誌論文（著者名・表題・雑誌名・査読の有無・巻・発表年・ページ）  
（例：野木さくら・太田みどり，関東地方北部に豪雪をもたらす大気循環場のモデリング，雪氷，査読有，76，2014，684-697.）
    - B. 学会発表（著者名・表題・学会等名・発表年月日・発表場所）  
（例：戸田久喜・市原八千代，埼玉県西部で発生した雪崩による林地崩壊とその経済的影響，第 33 回日本自然災害学会学術講演会，2014 年 9 月 24～25 日，鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市）.）
    - C. 図書
    - D. 産業技術権の出願・取得状況
  - ・ 研究報告
  - ・ 今後の対策に向けた提言：分野ごとに A4 版 1 枚程度のまとめ
    - 雪崩（取りまとめ役：上石勲）
    - 融雪（取りまとめ役：若井明彦）
    - 生活関連（取りまとめ役：上村靖司）
    - 建築（取りまとめ役：高橋徹）
    - 農業（取りまとめ役：森山英樹）
    - 道路交通（取りまとめ役：福原輝幸）
- ※冠雪害についても可能であれば提言を検討する（松元高峰・竹内由香里）
- ※情報伝達についても可能であれば分野毎に提言に盛り込む

### 3. 重要な日程

6月20日: 研究報告のタイトル・著者連絡締切

→原稿用テンプレートファイル・執筆要領を返送します

6月30日: 研究報告・今後の対策に向けた提言原稿締切

7月16日: 研究協力者・研究発表リストの連絡締切

7月31日: 報告書の配布希望先についての連絡締切

\* 御連絡はすべて河島克久(kawasima@cc.niigata-u.ac.jp)宛にお願いいたします

### 4. 研究報告の執筆要領

お送りいただいた研究報告原稿は印刷会社によって統一したフォーマットに再編集した上で印刷・発行いたしますが、ページ数の目安・図表等のレイアウト確認・編集作業の効率化のため、以下の要領で原稿を御作成いただきたくお願いいたします。

- ・ A4版 2段組(24文字×2段×48行)で原稿を作成する
- ・ レイアウトした図表・キャプション等も含めて10ページ以内とする
- ・ カラーを使用するページは原則的に2ページ以内とする
- ・ 原稿のファイル形式はWordを基本とする
- ・ フォント・段組・レイアウト等の詳細は添付した例を参照のこと(タイトルと著者名を御連絡いただいた際に、テンプレートファイルを返送します)
- ・ そのほかについては、「雪氷」執筆要領に従うものとする  
(<http://www.seppy.org/seppy/wausj6> でダウンロード可能)
- ・ 「今後の対策に向けた提言」原稿は、「研究報告」本文と同じ要領で執筆

# 特別研究促進費「2014年2月14-16日の関東甲信地方を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」研究成果報告書の執筆要領

市川三郷<sup>1)</sup>・野木さくら<sup>2)</sup>・戸田久喜<sup>3)</sup>

- 1) 山梨大学農学部農林工学科
- 2) 宇都宮大学理学部大気海洋科学科
- 3) 埼玉大学都市圏雪氷災害研究センター

## 要旨

親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間程腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかもしれぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫や。いと囃し立てたからである。小使いに負ぶさって帰ってきた時、おやじが大きな眼をして二階位から飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云ったから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

## 1. はじめに

原稿は以下に示す要領に基づき、レイアウトした図表等を含めて、A4版10枚以内で作成する。カラーページはそのうち2枚以内とする。

表題から要旨までを除いて、横書き2段組とし、1段は24字×48行とする。余白として上下25mm、左右は20mmあけること。

タイトルはMSP明朝11ポイント(太字)、著者名はMSP明朝10ポイントを用いる。著者の所属機関が異なる場合には、著者名の右肩に<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>、<sup>3)</sup>をつけ、著者名の下にそれぞれの機関名を記す。

研究報告には500字以内の要旨をつけるものとし、所属機関の下にMSP明朝10ポイント(1段)で記すこと。

章・節のタイトルは、「2. 調査地域」「3.1 積雪水量の推定方法」のように、MSPゴシック10ポイント(太字)で示す。本文はMSP明朝10ポイントを用いる。

句読点は「、」と「。」を用いる。単位は $m\ s^{-1}$ のようにベキ指数で表記し、半角1文字空けて単位の積を表す。数式を用いる場合は、上下に1行ずつあけて明瞭に書く。数式の後には(1)、(2)などの番号をつけ、本文中の引用は式(1)、式(2)などとする。量・数を表す記号、変数はイタリック、その他は立体とし、添字も同様とする。

本文中の引用の仕方は「雪氷」の執筆要領に従うものとする。引用した文献は本文の末尾に文献と記し、第1著者姓のアルファベット順に並べること。記載方法は本頁末尾の例、および「雪氷」の執筆要領に従う。

なお、投稿された原稿は、印刷会社によって統一したフォーマットに編集し直した上で報告書として印刷・発行するため、最終的なレイアウトはこの要領(およびテンプレートファイル)と異なるものになる予定である。

## 2. 図・表

図(写真も図とする)と表は、通し番号、表題・説明等をつけた上で、原稿中に画像をレイアウトして貼り付けること(別紙にはしない)。図表のサイズはページ幅または半ページ幅に限るものとする。

図の表題・説明は図の下に、表の表題は表の上に記載する。いずれもMSPゴシック9ポイントを用いる。

カラーを用いた図・写真は必要最小限にとどめるものとし、基本的に各研究報告あたり2ページ以内とする。



図1 甲府市古関町の雪崩発生状況。

## 文献

Ichikawa, M., Ichihara, Y. and Ono, M., 2009: Snow avalanche disturbances in deciduous forests in central Japan. *J. Glaciol.*, **194**, 1376-1390.

野木さくら・太田みどり, 2010: 関東地方北部に豪雪をもたらす大気循環場のモデリング. *雪氷*, **72**, 613-622.

Toda, H., 1970: *Natural hazards and disaster recovery*. Amsterdam, Elsevier, 577pp.

# 2014年2月 関東甲信 大雪災害シンポジウム

－ 群馬県における大雪被害の実態と今後の対策 －

日時：2014年6月27日（金） 13時30分～16時30分 **参加無料**

会場：群馬県青少年会館 大会議室 前橋市荒牧町2番地12(前橋ばら園より徒歩5分)



**開催挨拶** 福原 輝幸 / 日本雪工学会 会長

**調査研究活動の経緯・概要**

河島 克久 / 新潟大学災害・復興科学研究所

## I 講演プログラム

### 1. 地元自治体からの大雪災害報告

- ・群馬県内の大雪と群馬県の対応  
中野 三智男 / 群馬県 危機管理監
- ・農業被害とその対策  
澁谷 喜久 / 群馬県農政部技術支援課 課長
- ・道路への影響とそこから学んだこと  
依田 哲太 / 群馬県県土整備部 参事(前橋土木事務所 所長)

### 2. 調査結果の報告

- ・気象・降雪  
中村 一樹 / 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
- ・道路・交通災害  
福原 輝幸 / 福井大学大学院工学研究科
- ・建築被害  
高橋 徹 / 千葉大学大学院工学研究科
- ・雪崩被害  
町田 誠 / 町田建設株式会社
- ・農業被害  
森山 英樹 / 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所

## II パネルディスカッション

「大雪災害の実態を踏まえた今後の雪対策の在り方」

### ・コーディネーター

上石 勲 / 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

### ・パネラー

地元自治体 (中野 三智男 澁谷 喜久 依田 哲太)

地元住民代表

調査チーム代表 (和泉 薫 福原 輝幸 森山 英樹 高橋 徹)

**閉会挨拶** 和泉 薫 / 特別研究促進費 研究代表者



主催：文部科学省科学研究費補助金(特別研究促進費)大雪災害調査研究グループ  
日本雪工学会・日本雪氷学会関東甲信大雪災害合同調査チーム

共催：防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 新潟大学災害・復興科学研究所  
群馬大学大学院理工学府 群馬県

お問い合わせ先：上石 勲 / 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター TEL (0258)35-8936

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

## 2014年2月 山梨大雪災害シンポジウム（案）

### －山梨県における大雪被害の実態と今後の対策 雪国の雪対策に学ぶ－

主催：文部科学省科学研究費補助金（特別研究促進費）大雪災害調査研究グループ

日本雪工学会・日本雪氷学会関東甲信大雪災害合同調査チーム

共催（案）：防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，新潟大学災害・復興科学研究所

山梨大学地域防災・マネジメント研究センター，山梨県

後援（案）：地元報道機関

開催日時：2014年7月14日 午後13：30～16：30

開催場所：山梨県立図書館（甲府市）

開催趣旨：2014年2月の関東甲信の大雪災害は、南岸低気圧によって非雪国を襲った大災害となった。地元自治体からの災害報告や災害発生後から調査に入った調査チームによって得られた調査結果などを踏まえ、雪国の雪対策などを参考に、今後の対応について考える機会としたい。

対象：一般市民、地元行政、地元防災機関 100名程度

#### 内容

開会挨拶 和泉 薫（特別研究促進費 研究代表者）

調査研究活動の経緯・概要 河島克久（新潟大学災害・復興科学研究所）

#### I 講演

##### 1. 地元自治体からの大雪災害報告

- ・山梨県内の大雪と山梨県の対応（山梨県総務部危機管理課）
- ・農業被害とその対策（山梨県農政部）
- ・道路への影響と対策（国土交通省甲府河川国道事務所  
山梨県県土整備部道路管理課）

##### 2. 調査チームからの報告

- ・気象・降雪（本田明治 新潟大学理学部）
- ・道路・交通災害（福原輝幸 福井大学大学院工学研究科）  
（佐々木邦明 山梨大学大学院医学工学総合研究部）
- ・雪崩災害（和泉 薫 新潟大学災害・復興科学研究所）  
（中村一樹 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）
- ・融雪災害（上石 勲 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）
- ・農業被害（森山英樹 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所）

## II パネルディスカッション

「大雪災害の実態を踏まえた今後の雪対策の在り方」

- コーディネーター 上石 勲（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）
- パネラー：国土交通省甲府河川国道事務所？  
    地元自治体（道路管理課）、住民代表（2名程度）  
    調査チーム代表（佐々木、和泉、福原、森山）

閉会挨拶 福原輝幸（日本雪工学会 会長）